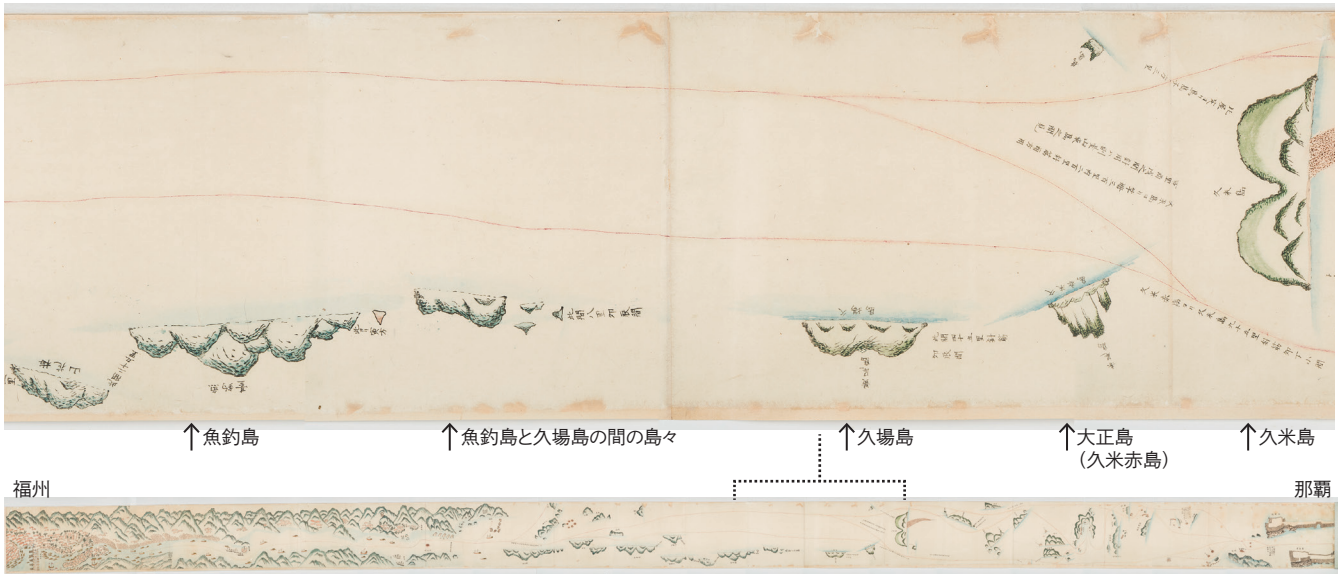


時代区分 | 琉球人が尖閣諸島について地理的認識を有していたことを示す資料

## 那覇-福州の航路上に尖閣諸島が描かれた琉球の巻物

No.1 <sup>とびん</sup> 渡閩航海図

新規掲載 作成年代不詳



所蔵: 沖縄県立博物館・美術館

## 資料概要

琉球国那覇港と中国福州港の間の航路が描かれた巻物(作成年代不詳)。福州港を出帆した船は、魚釣島-久場島-久米赤島(大正島)-久米島を通過して那覇港に帰港していたことが読み取れる。

尖閣諸島は、明・清朝の使節の記録(冊封使録:さくほうしらく)など中国の記録にも登場するが、この図は、島の名称を記す際、久場島と大正島については、上に冊封使録の呼称(黄尾島、赤尾島)、下に琉球における呼称(久場島、久米赤島)を併記している。

魚釣島と久場島の間には、いくつか島が描かれている。これらが尖閣諸島のどの島々を指すのかは不明であるが(※1)、那覇福州間の島嶼、航路の途中にある尖閣諸島の存在について、琉球人が具体的な知識を獲得していたことが分かる。

※1 図には5つの島々が描かれている。魚釣島と久場島との間には、飛瀬、北小島、南小島、沖ノ北岩、沖ノ南岩が存在する。

## 内容見本

魚釣島

此ヨリ寅方

此間八里卯辰間

黄尾島 久場島

此間四十五里針筋卯辰間

赤尾島 久米赤島

久米赤島ヨリ久米島九十五里針筋卯下小間

作成年月日	-
編著者	-
発行者	-
収録誌	-
言語	日本語
媒体種別	紙
公開有無	無
所蔵機関	沖縄県立博物館・美術館
利用方法	沖縄県立博物館・美術館に問い合わせを行う